

◆◆◆◆ 学校をつぶすな！ ◆◆◆◆  
◆◆◆◆ 併置型特別支援学校化（養護学校との統合）に反対 ◆◆◆◆  
◆◆◆◆ 養護学校増設の犠牲にされるろう学校 ◆◆◆◆  
◆◆◆◆ 沖縄ろう学校PTAらが反対運動へ ◆◆◆◆

## 沖縄県の盲聾養護学校の再編計画と「聾・知併置学校」化

沖縄県の現状は、かなり厳しい。県の特別支援教育予算は、毎年減らされている。県の財務課に、「特別支援教育には普通の教育の10倍の予算を使っている」と、予算削減を詰め寄られる。

ろう学校だけではない。特別支援教育への移行による再編整備計画では、沖縄県内のどの学校も厳しい状況になることが予想される。

この計画に子供の教育環境を守る視点はない。財政合理化の視点だけである。「特別支援教育」の名を借りて、障害のある子はみんな同じ場所に押し込めて教育すればいいと思っているとしか思えない。

県は、今年五月に、ろう学校の視察にやってきた。そのとき、財務と総務の担当者が言った言葉は、「耳が聞こえない子供たちが通っているのだから、立て直す時に防音工事は必要なのではないか」というものであった。県の、聴覚障害教育にたいする理解は、この程度のものである。

ちなみに、沖縄ろう学校は、北谷基地と隣り合わせなので、米軍の演習などで頻繁にヘリコプターや戦闘機の上空通過がある。そのため、そのあたりの家屋には、防音工事が、国の予算ですることが義務付けられている。

### ◇立ち上がる親たち、地域の聴覚障害者たち

これに対して、沖縄ろう学校PTA、沖縄ろう学校同窓会、沖縄県聴覚障害者協会、沖縄県難聴者・中途失聴者協会、沖縄県聴覚障害児を持つ親の会が共同して、署名活動に、立ち上がった。

県は、「教育格差」（知的障害児は不自由な思いをしながら学習しているのに、聴覚障害児は手厚い環境で学習している）の是正として併設を正当化している。他の障害種別（聴覚障害教育）の犠牲の上に特定の障害種別の教育（知的障害教育）の振興を図るといふ、なんとも悲しい状況がみられる。

### ◇全国の中で、沖縄の「聾知併置」を撤回させよう

2007年4月1日の「改正学校教育法」施行によって、従来の「盲聾養護学校」が法律上は「特別支援学校」に一本化された。これによって、沖縄や愛媛のような、ろう学校と養護学校の「併置」への移行が可能となった。

だが、これはあくまで「可能になった」だけであって、そうするかしないかは、都道府県に任されている。「特別支援学校」が、聴覚障害者とか知的障害とか、特定の障害種別

の教育に専門化していてもかまわないし、「ろう学校」の名称をそのまま続けても、かまわないのである。これは、文科省の通達にも、そのように書いてある〔「ろう教育の明日」52号の市橋報告を参照〕。

全国の聾学校の中で、児童生徒数の多い学校は、「ろう学校」をそのまま続ける状況にある。だが、地方の聾学校の中には、児童生徒数の極端に減少している学校もあり、そのような学校は、「養護学校との統合」を迫られるおそれがある。愛媛、沖縄は、そのおそれがまさに的中したケースである。これから、全国に同様の事例が続出するであろう。愛媛、沖縄は、決して他人事ではない。明日は我が身と受け止めて、全国の聴覚障害教育関係者が一体となって、この「ろう学校つぶし」に対処して行かねばならない。



### 署名にご協力下さい



(署名用紙は、ろう・難聴教育研究会トップページの「署名用紙」をクリックして、ダウンロードして下さい。署名済みの用紙は、沖縄ろう学校PTA会長 洲鎌八恵子さんまで送って下さい。宛先は、署名用紙に記載されています)。

沖縄ろう学校 幼児・児童・生徒数

幼稚部	18名
小学部	21名
中学部	23名
高等部	16名

---

計	78名
---	-----